2016 年度ラチーノ学院卒業式報告

2016 年 12 月 20 日
引地正之
学移連 OB 会副会長・西日本支部支部長
（昭和 41 年度英米語学科卒・海外事情研究会 OB）



滋賀県東近江市甲津畑町に移転後 2 回目となる 2016 年度ラチーノ学院卒業式は、12 月 17 日午後 2 時から東近江市山上町東近江市山上町「永源寺コミュニティーセンターもみじホール」で挙行されました。

卒業式にはラチーノ学院中川理事長・カイオ校長及び理事・教職員等の学院関係者、来賓の小椋東近江市長・東近江市市役所関係者、東近江市警察署長、保護者等約 150 名の方々が参列してラチーノ学院の卒業生を祝いました。



式は、厳粛な中にもブラジルらしい陽気な雰囲気の中で中川理事長の挨拶、カイオ校長の式辞に始まり、東近江市長、東近江市警察署長の祝辞の後、幼稚園部 8 名・中学部 7 名・高等部 16 名の卒業生一人一人が教職員と抱擁を交わしながらカイオ上村校長から卒業証書を受け取った後、学院で学んだ日ごろの成果を遊戯や合唱で披露して式を盛り立てました。

保育部 8 名・中等部 7 名の卒業は同学院の上級クラスに進級して、高等部 16 名の卒業生は、6 名が京都外国語専門学校へ入学希望、4 名はいったん就職して学業資金を貯蓄してから京都外国語専門学校へ入学希望を持っており、6 名は就職して働きながらブラジルの大学のインターネットでの通信教育を受けるそうです。

東近江市に移転してから 2 回目となった今年の卒業式は、昨年よりも地域住民の出席者が増えて、学院は地域社会に溶け込みつつあると感じました。又、昨年に引き続き、同学院高等部を卒業した生徒及びその家族はブラジルに帰国せず、そのまま日本に滞在する家族が殆どであり、日本での定住者が増えております。このような傾向から彼等日系ブラジル人が今後さらに日本社会へ同化するべく、子弟たちの日本語教育にもっと力を入れなければならないと思いました。　　―了―







